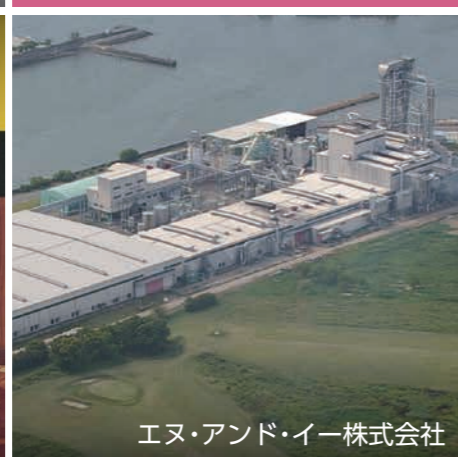


# kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Spring 2023 / vol.15



kigokoro

Spring 2023 / vol.15

第15号 令和5年4月1日発行  
編集・発行：永大産業株式会社 事業管理部 広報課  
〒559-8658 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL:06-6684-3058 FAX:06-6684-3051



色をまとった  
天然木の美

銘樹 Mokutone<sup>®</sup>  
モクトーン  
MEIJYU

木を活かし、よりよい暮らしを

EIDAI

永大産業株式会社  
www.eidai.com

お客様相談センター

☎ 0120-685-110

[受付時間] 平日・土曜日9:00~18:00(休業日:日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始)

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索





# グランマジエストファニチャー

リビング・ダイニングをさらに上質な空間に

2022年9月26日に発売した「グランマジエストファニチャー」は、上質な外観と美しい納まり、そして使いやすいを追求したTVボードです。当社のハイエンドモデルとして、自信をもっておすすめできる製品です。



一枚板のような連続した木目柄が特長のグランマジエスト ファニチャー



フロート調デザインのカウンター



ファインモーション機構搭載の引き出し



すっきりとしたデザインで、滑らかに開くフラップ扉



扉とサイドパネルの納まりは45度留めカット仕様

高級志向にふさわしい  
特注も対応可能なTVボード

内装材の最上位シリーズである「グランマジエスト」(2020年11月発売)は、室内ドア、シューズボックス、化粧壁材、造作材といった、玄関まわりを主体とする4製品で構成してまいりました。

新製品「グランマジエストファニチャー」は、玄関まわりからさらに発展させて、リビング・ダイニング向けに新たに開発した収納製品(TVボード)です。

意匠については、ご好評いただいているシューズボックスのデザインを踏襲し、石材や金属の質感を触感までリアルに再現した扉のほか、一枚板のような連続木目扉などを採用しました。

カウンターの厚み(見付け)を6mmと薄くし、カウンターが浮いたように見えるフロート調デザインも高級感を一層際立たせます。

また、「グランマジエストファニチャー」では、ゆっくりと扉が閉じる「ファインモーション機構搭載の引き出しをはじめ、滑らかに開く中央のフラップ扉など、厳選した金具を使用し、収納としての使いやすさも両立させました。

扉上部は手の掛けやすい60度に加工する一方、扉とサイドパネルの納まりは、45度の留めカット仕様とし、デザインと機能性を追求しました。なお、さらに収納量を増やしたいというお客様には、TVボード自体の寸法変更や、TVボード周辺のウォールキャビネット設置も対応可能です。

ぜひ、お近くの弊社営業所にお問い合わせください。

開発者の声

グランマジエストの上質な世界観をお客様と広く共有したい

エンタランス空間からリビングへと、提案の場が広がったグランマジエスト。新製品のTVボードに込めた思いを開発担当者が語ります。



引き出しはスチールを使い、スマートなデザインに

新たに「グランマジエストファニチャー」を開発した経緯について教えてください。

手塚 最上位シリーズであるグランマジエストは、主にお客様を迎えるパブリックスペースで使われることを想定しています。そこで、玄関ホールを主体にブランドの構築を推進しましたが、お客様からのご評価次第で、すぐにリビングへの展開を図ろうと考えていました。リビングでお客様が特にこだわるのはTVまわりです。実際、グランマジエストのシューズボックスと同じ質感のTVボードが欲しいという声もいただいていた。

梶田 高級感のあるTVボードは造作されることも多いのですが、素材の良し悪しや職人の技量によって品質にバラつきが出てしまいます。工場生産によって均一な高品質を担保できるグランマジエストなら、自信を持っておすすめできると考えました。

設計やデザインの面ではどのような工夫をされましたか。

藤井 ターゲットのライフスタイルを考えると、TVは壁掛けが主流です。そのためTVボードは、DVDなどが入る奥行を確保しながらも、なるべく薄くスマートに設計しました。デザインは他のグランマジエスト製品と合わせつつ、ディテールにまで気を配っています。たとえば、素材の木口や余計なラインを見せないこと。外観はもちろん、扉を開けた時にも継ぎ目が目立ちません。また、両端の引き出しや中央のフラップ扉も、金具ひとつまで選び抜き、グランマジエストの世界観に見合うように仕上げました。



Attention!  
Granmajest公式 Instagram  
Granmajest公式 Instagramでは、実際に製品をご採用いただいたお施主様からの施工事例もご紹介しております。ぜひ、フォローをお願いいたします!

お客様のこだわりに応える上質感を、すみずみまで追求したいというところですね。

梶田 はい、今回は海外の高級家具も参考しながらコンセプトを詰めていきました。発売後は間口4mの特注をいただくなど、大きな手応えを感じています。またインスタグラムでは、グランマジエストの専用アカウントを立ち上げ、その上質な世界観をお客様と広く共有する取り組みも行なっています。ぜひご覧ください。



開発に携わった内装システム事業部 商品部 商品開発一課のメンバー  
(写真 左から) 藤井 寛子、手塚 有華子  
商品部長 梶田 潔司

## 永大産業株式会社 大阪事業所

### 受注生産による多品種少量生産の主力生産拠点

大阪事業所は、室内ドア、造作材や収納製品などを生産する当社の主力工場です。受注生産による多品種少量生産の工場として高品質なものづくりに注力しています。



永大産業株式会社 大阪事業所全景

大量生産可能なプレハブ住宅が次々と建設されるようになった1960年代当時、ハウス事業に進出していた当社は、1964年、大阪府の堺臨海工業地帯にプレハブ住宅の生産工場を新たに建設しました。それが堺事業所(現大阪事業所)です。当社は木質系、鉄骨系のプレハブ住宅を開発し、当時の大手と競合しながら積極的に販路を開拓していきました。

しかし当社が1978年に経営破綻し、1980年をもってハウス事業から撤退することになると、同事業所の役割も大きく変わりました。大阪事業所に名称が改められ、住宅資材の製造に特化していき、パーティクルボードを生産していたのは対照的に、大阪事業所では室内ドアや収納、造作材など、多品種少量生産がメインとなりました。

なかでも、工業化の遅れていた造作材をトータルコーディネートにおける重要な部材とみなし、建具や収納、フロリング等を一括受注する「IPシステム」という手法を1980年代末期、業界に先駆けて開発した当社は、大阪事業所そのシステムをフルに活用し、売上を伸ばしてきました。

2014年には新しい試みとして同事業所内に、体感型のショールーム「大阪ファクトリーギャラリー」を設置して、お客様の満足度向上にも力を入れてきました。

## 永大産業株式会社 大阪事業所生産品のご紹介 室内ドア・造作材／クロゼット／収納

永大産業株式会社 大阪事業所では、開設以来培ってきたものづくりの技術と最新の技術を融合させ、多品種少量短納期に対応したフレキシブルな生産システムで生産を行っています。



室内ドア・造作材施工例



室内ドア施工例

### 室内ドア・造作材

建具では、原材料の投入から仕上げまで、一貫した生産ラインで多品種少量短納期を実現しています。また、造作材では「正寸プレカット加工」で現場での省施工に貢献しています。



リビングステージ施工例



玄関収納施工例

### 収納

生活環境の変化や多種多様なニーズに合わせて、さまざまな生活シーンで活用できる製品を生産しています。



クロゼット折れ戸施工例



クロゼット開き戸施工例

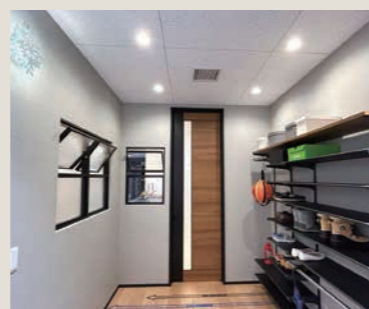
### クロゼット

ラッピングや蝶番加工など、高い加工技術でお客様のニーズにいち早くお応えし、高品質な製品を生産しています。

## 大阪ファクトリーギャラリーのご紹介

大阪事業所には、実物大のルーム展示でデザインや性能などを体感していただける大阪ファクトリーギャラリーを設置しています。

常に新製品を展示し、室内空間をトータルでご覧いただけるようになっております。ぜひ、足をお運びいただき、カタログではわからない「実物の臨場感」をご体感ください。



### 大阪事業所の歩み

年 月	内 容
1964 8	堺事業所(現 大阪事業所)開設 堺ハウス工場、堺キングポリ工場竣工
1981 6	下駄箱(玄関収納)生産開始
1982 4	造作材(IP商品)生産開始
1987 7	トータルインテリアコーディネートシステム「IPシステム」導入
1987 10	大阪事業所名称を変更
2000 12	社員研修・人材育成を目的として、テクニカルセンター大阪を設置
2001 8	ISO9001 認証取得
2003 12	ISO14001 認証取得
2007 6	フラッシュ建具ライン完成
2014 4	体感型ショールーム「大阪ファクトリーギャラリー」開設
2015 7	「大阪ファクトリーギャラリー」増設
2016 6	新倉庫完成

しかし、すべての道のりが順調だったわけではなく、2018年9月には、近畿地方を襲った台風21号により、同事業所は大きな高潮被害を受けました。この時得た教訓を糧に、当社では生産体制、物流体制を見直して、BCM事業継続マネジメントを念頭に置いた生産拠点の整備を進めてきました。

今日、同事業所はBCMの強化に加え、省施工化を実現する邸別、部屋別のプレカットシステム、短納期に対応した生産システム、二次元コードを活用した物流管理システムなどを駆使する、当社の主力生産拠点となっています。



木質ボード事業(MDF)の生産拠点

永大産業グループの中で、パーティクルボードとともに木質ボード事業を支えているのが、エヌ・アンド・イー株式会社の高品質MDFです。



エヌ・アンド・イー株式会社 全景



巨大なフラッシュドライヤー



良質の国産材チップを常時ストック

エヌ・アンド・イー株式会社 会社概要	
設立	1995年4月3日
資本金	450百万円
出資比率	日本製紙木材株式会社 70% 永大産業株式会社 30%
本社所在地	徳島県小松島市和田津開町 字北395番地6
代表取締役社長	渡邊峰男
従業員数	95名(2023年2月1日時点)



1990年代、国内市場において合板の主導権はインドネシアが握るようになりましたが、その価格や供給について先行きを不安視する向きも少なくなく、当時、代替製品として最も注目されたのはMDFでした。こうした中、1995年に当社と日本製紙株式会社約100億円を投じて立ち上げたのが、エヌ・アンド・イー株式会社でした。

国内で3工場目、しかもドイツ製連続プレスを擁する大型MDF生産工場の誕生という話題性に加え、単独ではなく文化の異なる二社による「ものづくり」という視点から、同社に対する関心は、当初から高いものでありました。

設立から四半世紀が過ぎた今日、同社が歩んできた道のりは「技術の研鑽」の一言に尽きるでしょう。言い換えればそれは、よりよい製品を生み出すために進めてきた設備改良の連続であり、また、新しい接着剤の開発の歴史でした。その中には、異なる2社ゆえの独創的な視点が、改善の手法という形で結実したものもありました。

2003年に同社は業界に先駆けて、ホルムアルデヒド放散量が極めて低いF☆☆☆☆の製品を発売しましたが、これも二社による

「技術の研鑽」の一環といえます。また、国産材チップを使いこなす技術にも長年磨きをかけてきました。2005年の時点で、同社の使用していた木材チップはその60%が国産材でした。しかし、現在ではその70%以上が国産材に置き換わっています。

国産材の利用は、森林の整備と深い関わりがあり、間伐材や林地残材も価値あるものとして利用され、その資金が山に還元される必要があります。徳島県でその仕組みづくりに力を注いできた同社は、間違いなく地域の林業や木材産業に大きな役割を果たし、永大産業グループの関係会社の中でも、稀有な存在と呼べるでしょう。

エヌ・アンド・イー株式会社の歩み

年 月	内 容
1995 4	日本製紙(株)、永大産業(株)による合同出資によりエヌ・アンド・イー株式会社設立
1996 10	MDF製造ライン完成(国内最大)
1997 1	NEOボード営業生産開始
1999 10	EOボード(現F☆☆☆☆ボード)の営業生産開始
2001 5	JISマーク(JIS A 5905)取得
2003 2	F☆☆☆☆ボード営業生産開始
2004 10	間伐材マーク取得
2006 9	39グリーンスタイルマーク取得
2008 7	新JISマーク認証取得(JIS A 5905 繊維板)
2009 1	研究開発棟完成
2009 6	ISO 9001:2008 登録
2010 3	徳島木材認証制度 登録
2010 10	「緑の循環」認証会議(SGEC) CoC認定
2011 2	SGEC認証MDFの生産開始
2011 2	みなとモデル二酸化炭素固定認証制度 登録
2012 4	ISO 14001:2004 登録
2017 3	とくしま協働の森林づくり推進機構と「とくしま協働の森づくりパートナーシップ協定書」に調印
2020 4	構造用MDFのJIS認証取得

エヌ・アンド・イー株式会社 生産品のご紹介 MDF(NEOボード、NEOボードS)

エヌ・アンド・イー株式会社では、現在、年間12万立方メートルの高品質MDFを生産し(国内シェア約11%)、永大産業株式会社では、そのMDFをフローリングやクロゼット扉等の基材に利用しています。

MDF(NEOボード、NEOボードS)

エヌ・アンド・イー株式会社が生産するMDFの製品名は「N&E ORIGINAL BOARD」、略して「NEOボード(ネオボード)」といいます。

なかでも原材料の約9割弱が国産材チップで占められるのが、「NEOボードS」という製品です。

「NEOボードS」の国産材チップは、地元である徳島県産が過半を占めており、県内の林業育成や地域の木材産業振興に貢献しています。

さらに同社では、国産材の活用促進を目的に「木づかい運動」、「間伐材マーク」、「FIPC木材表示制度」などの認証を取得しています。



盤面が美しく強度にも優れた「NEOボード」



ドイツ・ディフェンバッハ社製連続プレス(長さ30m)



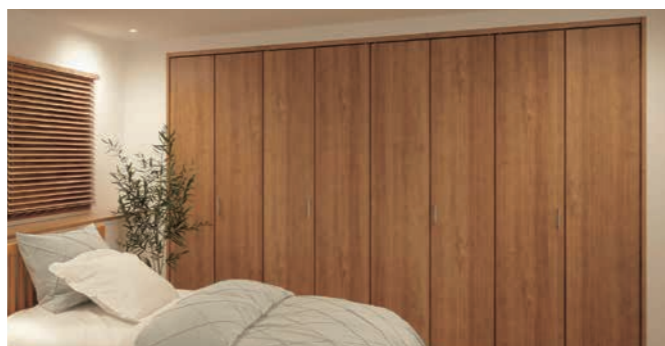
国産材チップ(画像は徳島スギ)

「NEOボード」を用いた当社の製品

永大産業株式会社では、「NEOボード」を用いてさまざまな製品を生産しています。例えば、厚さ2.7mmの「NEOボード」は、複合フローリングの基材に、また厚さ2.5mmのものは、クロゼット扉の表面材に使用しています。



複合フローリング



クロゼット扉(フルフラットデザイン)

TOPICS

社会貢献活動と普及活動  
木育の教材も開発

エヌ・アンド・イーでは、学生や生徒の研修の受け入れや体験実習、清掃活動と多岐にわたる社会貢献活動を行っていますが、さらなるMDFの普及を目的に、木育の教材なども開発して発売しています。



# 匠に聞く

川瀬 龍覚氏  
宮大工 川瀬 龍覚氏

## メーカーの良心のもと、十分な説明を行うことが重要

いかに技術、技能を後世に伝えていくか。それはあらゆる分野に共通する永遠のテーマと言えます。対処を誤れば、それらの技術、技能は失われ、最終的に大きな損失につながりかねません。今回はそうしたテーマと真摯に向き合い、わが国の社寺建築に必要な技能と、その後継者の育成に取り組んでいらっしゃる宮大工の川瀬龍覚氏にお話をうかがいました。



宮大工・川瀬 龍覚氏

私たち建材メーカーは、大工技能者の不足に伴い、製品の省施工化に力を入れています。

建材メーカーさんが気に留めおくべき点は、大工技能

宮大工の後継者もまた、不足しているのでしょうね。

私は宮大工として長年励行してきました。それは食事制限です。手の脂分が建築材料(木材)につかないようにするため、肉や魚は食べません。日に一度夕食を野菜中心に摂るだけです。長く現場を見続けた結果、建立直後はわからなくても、手の脂分は3〜4年経てば白木に浮き上がってくるのがわかりました。

十分に栄養を取り、そのパワーで現場を次々とこなしていくのであれば、大工仕事で十分でしょう。しかし、宮大工は物理的に困難な作業を知識とアイデアで乗り切り、また百年後、二百年後の建物の姿を見据えて作業を行います。それに自分の手形という恥ずかしい跡を残したくはありません。そのためには食事に気を遣う必要があるのです。しかし、現代の若者に食事制限を求めた場合、簡単に応じられる者がいるでしょうか。



江戸時代の釘の使い方を解説する川瀬氏

者(以後、大工)の減少だけでなく、同時に高齢化も進んでいるという点です。全体を仕切る棟梁はもちろん、高齢の大工はスマートフォンも使いこなすことができませぬので、カタログから何かの手法を用いてわかりやすい施工手順に誘導したとしても、それを活用することはできないでしょう。若い大工はそうした新しい機器を使うことに抵抗はありませんが、技能という点でまだまだ未熟です。また、昔であれば大工は、自ら手掛けた場所がどうなっているか、その後定期的な巡回したものです。しかし、今は、工事が終わればそれっきりで、再確認をすることがほとんどなくなりました。

建材メーカーさんが思っている以上に、これから先、建築の現場は人手不足、技能不足に悩まされるかもしれません。そうならないように、私は今、後継者の育成に持てる力を注いでいます。

### 宮大工としての誇りとは何でしょうか？

ひとつことという「奉仕の精神」があるかどうかです。

たとえば、請負金額から必要な経費を差し引き、最終的に百万円が残ったと考えてみてください。この百万円を自らに対する追加の利益とみなして、もうそのまま何もしないのか、それともその百万円を活用して、さらに

遠い未来を描くためにここまでするには、強い信念がないと無理です。

なんとか本物の後継者を育てて、私の道具類すべてを譲り渡したい。けれどもそれに応えられる者はまだ、現れない。そのジレンマを抱えています。

海外から日本に憧れて建築業界に身を投じる外国人の方もいらっしゃいますが、大工になるならまだしも、宮大工となると、自らの考えを根底から変えるぐらいでないとは難しいでしょう。

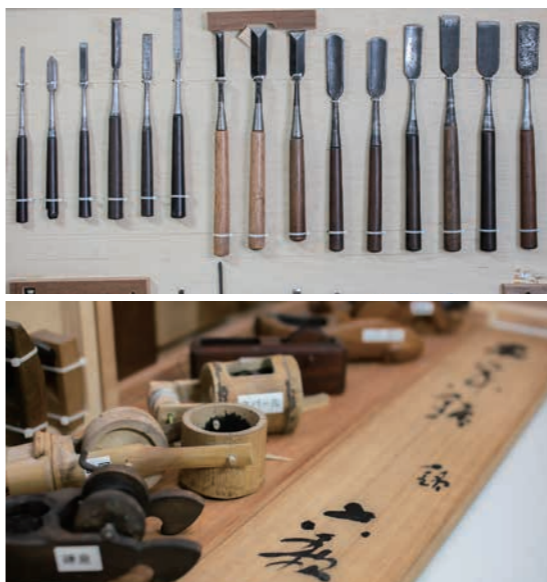
### 過去の技術を現代風にアレンジして伝えることは可能でしょうか？

技術における「伝承」と「伝統」は異なります。前者は昔ながらの方法をそのまま用いることですが、現代では通用しません。後者は昔の良さを残しながらも、現代の手法を取り入れていくことです。それゆえ、コンクリート製の社寺もあり得ます。一般に釘を使わない工法が良いと言われますが、そもそも江戸時代以前、釘は手作りで高価な材料だったため、それを使わずに済む工法が普及していったのです。どれぐらい良い素材だったかという点、江戸時代までに建てられた社寺を解体した際に出る釘で、よく鍛えられたものは日本刀の刀身に再利用できるぐらいの水準なのです。

従って現代風にアレンジできるかというより、むしろ、その方向でしか技術は残らないと思っています。後継者の数が少ない上に、多くの技能を十分身に付けられないとしたら、現場では必然的に分業化が進むと考えられます。一般住宅の施工現場も、今より一層、そうなることはいくかもしれません。皮肉なこと分業化が進むということは形だけ見れば、昔のスタイルに戻るといえるのですが。

よい建物に仕上げるか、そこには大きな差があります。宮大工はもちろん後者の方です。

また宮大工は、木材をはじめ材料を見極める能力にも長けている必要があります。十メートルのスパンで梁を渡すと、中央部分がどれだけたるむか、それにどれだけ重さの屋根をのせると、柱が内側に傾かず、垂直に仕上げるができるかなどは、材料を見極め、計算すぐで行うものです。昔、大工はそうした材料を見極めて仕事をしました。



素材や場所に依りて使い分けてきた大工道具の数々

私たち建材メーカーが、今後求められてくるものとは何でしょうか？

建材メーカーさんの場合、ほとんどすべての生産工程が機械化されているとはいえず、企業としての「良心」が必ずあるはず。その「良心」に従い、施工者にとっては取り扱いやすく、施主にとっては便利で使いやすい製品を追求し続けてください。そして、自信をもって、その製品の特長や良さを説明するようにつけてください。突き詰めればものづくりとは「自己満足」なのでしょうが、使う人に理解され、喜んでもらうには意味を成しません。それが「奉仕の精神」というものでしょう。私の手掛ける建築も、建材メーカーさんのおつくりになる製品も、最後はその心のありよう、すなわち良いものを残したいという信念に大きく左右されるのではないかと思います。

### プロフィール

#### プロフィール



川瀬 龍覚氏  
(かわせ りゅうかく)

仏門に入っており、本名は川瀬 建二氏(かわせ けんじ)

1944年広島県生まれ。さまざまな職歴を経て、23歳の時、宮大工の門をたたく。日本最古の社寺建築で知られる金剛組の元棟梁。

これまでに200以上の社寺建築に携わり、1998年「黄綬褒章」授賞。

団体の要職に就くかわら、大阪府内の高校で講師を務めるなど、若手後継者の指導・育成に力を注ぐ。

1946 (S21)  
 1950 (S25)  
 1955 (S30)  
 1960 (S35)  
 1965 (S40)  
 1970 (S45)  
 1975 (S50)  
 1980 (S55)  
 1985 (S60)  
 1990 (H2)  
 1995 (H7)  
 2000 (H12)  
 2005 (H17)  
 2010 (H22)  
 2015 (H27)  
 2020 (R2)  
 2021 (R3)  
 2022 (R4)  
 2023 (R5)

## コンパネを経て木質フローリングへ

表:住宅1戸あたり床面積

年	面積 (㎡)
1969	93.0
1968	89.7
1967	88.0
1966	83.4
1965	80.9
1964	79.9
1963	77.9
1962	77.7
1961	78.4
1960	75.6
1959	75.2

出典:住宅着工統計、持ち家

当社が木質フローリングの販売に着手したのは1964年(昭和39年)のことです。1956年に一度、本社工場で南洋材(ラワン材)を原材料に、ムクのフローリングを生産したとの記録が残っていますが、どうやらこの時は合板用のラワン材を用いて何か製品化ができないか、という程度のもので、本格的なフローリング生産を意図したものではありませんでした。さて1964年ほどのような年だったかというところ、東海道新幹線の開通や東京オリンピックの開催など、わが国の経済発展を象徴するような出来事がありました。また住宅産業においても、大量生産を目的とした「プレハブ住宅」が建設されるようになり、さらに2階建て住宅の普及に伴って、住宅1戸あたりの床面積(持ち家は右肩上がり)が増えていき

ました(表)。もちろん当時は和室、つまり畳敷きが圧倒的な割合でした。しかし、こうした社会情勢を背景に、「床」は当社を含む建材メーカーにとつて、将来有望な市場と受け止められるようになっていきました。壁材という薄物合板を主体に製品開発を進めてきた当社にとつて、床材の生産を行うには相応の荷重に耐える厚物合板が必要でした。幸いにも前年の1963年、公共事業向けに投入した12ミリ厚コンクリート型枠用合板(製品名「コンパネ」)が、好景気の波に乗って好調な売れ行きを示しました。この成功で厚物合板の生産体制を確立できた当社



ツキ板を採用した「タフトップW」

## 豪華な寄木調の「タフトップW」を発売

ただ、この時点で当社はフロア合板を生産し、フローリングの開発を行っていたに過ぎず、「タフトップ」も「タフトップW」も外注製品で、一貫した自社生産を開始したのは、それから3年後の1968年になってからでした。

丈夫(タフ)な表面(トップ)という意味で名づけられた「タフトップ」は、あくまでもキッチンや洗面所などの水まわりを想定して開発されたものでした。そのため洋室(応接間)で、表面が塩化ビニルタイルだと、今一つ冴えない見栄えとなってしまう。そこで、建材プリント合板などとも色合わせができるよう、表面化粧材として塩化ビニルタイルに代わって銘木ツキ板を貼った「タフトップW」というフローリングを開発し、1965年から大々的に発売しました。「タフトップW」は手の込んだ寄木調のデザインが特長で、洋室のほか、玄関や廊下に採用されました。

は、その技術をフローリング基材(フロア合板)に応用し、本格的な木質フローリングの開発に着手します。その第1号が1964年に発売した「タフトップ」という製品でした。「タフトップ」のフロア合板には耐水性を高めるため、尿素・メラミン樹脂の接着剤を使用しました。また、表面化粧材には塩化ビニルタイルを用いました。ちなみに当社では、自社製合板の耐水性を実証するため、1960年から合板製モーターボートの開発に取り組み、1962年からは海上での大掛かりなボートレースに参戦できるくらいまで実力を養っていました。

今回は建材(木質フローリング)の歴史についてご紹介します。

# EIDAI HISTORY 第15回 建材(木質フローリング)

1

## EIDAI Headline News



詳細はこちら

### ■「乾太くん」専用収納ユニットを発売 (リンナイ社推奨品)

2月1日に発売した新製品「乾太くん」専用収納ユニットは、リンナイ株式会社製の家庭用ガス衣類乾燥機「乾太くん」を洗面脱衣室やランドリールーム等に設置できる収納製品です。従来は主にスチール製のラックが用いられてきましたが、当社では木質素材で耐久性とインテリア性を兼ね備えた新たな専用ユニットを開発いたしました。



作業時に負担が少ないカウンター高さ、洗濯物の仕分けや洗濯物量みにお使いいただけるスライドカウンター、洗濯ネットなどの洗濯用品、タオルや衣類を収納できる引き出しなど、使いやすさを追求し、シンプルなデザインに仕上げました。



身長160センチ未満の方でも楽に洗濯物を出し入れできる高さです



スライドカウンターは、洗濯物の仕分けや量み作業に便利です



洗濯ネットなどの洗濯用品、タオルや衣類を収納できる引き出しをご用意しました

※「乾太くん」は東京ガス株式会社の登録商標です

### ■ TBS金曜ドラマ「100万回 言えばよかった」 銘樹 Mokutone セットに美術協力



当社は、1月から3月にかけて放送されたTBS系金曜ドラマ「100万回 言えばよかった」のセットに美術協力させていただきました。製品は「銘樹モクトーン 3Pタイプ アカシア」で、ドラマの中では中古マンションをリノベーションした主人公の部屋の床材に用いられました。Instagramの当社アカウントでご紹介していますので、ぜひご覧ください。



詳細はこちら



「銘樹モクトーン 3Pタイプ アカシア」を用いた舞台セット



#### 編集後記

「弘法筆を選ばず」という言葉は、一般に「弘法大師のような達人ならば、成果は道具の良し悪しに左右されない」と解釈されていますが、一方で、「自らの粗末な出来を道具のせいにするべきではない」との戒めの意味も含まれているようです。取材で宮大工の川瀬氏のご自宅を訪問した際、名工の手による大工道具が所狭しと置かれていました。日本刀を溶かして鍛え直した1本200万円の玄能

(金づち)は、鉄に弾力性があり、狙った箇所確実に振り下ろすことができるそうです。また、誰もが知っているお宝鑑定番組で、1丁80万円の値がついたのこぎり、素晴らしい切れ味の逸品とのことでした。一流の職人が良い道具を用いて、最高の結果を残そうとする姿勢を前に、今回改めて「弘法筆を選ばず」という言葉について考えさせられました。

永大産業株式会社 事業管理部 広報課 ©2022Eidai Co., Ltd.

お断り:原則、文中での敬称は省略させていただいております。